#### 

## 妊娠期および出産後における Maternal Attachment と 母親の育児態度との関連

一妊娠初期から出産後18か月までの縦断研究 一

佐 藤 里 織

## 〔論文要旨〕

本研究では、50名の母親を妊娠初期、中期、後期、出産後1ヵ月、出産後18ヵ月の計5時点にわたって追跡調査し、妊娠期および出産後1ヵ月における Maternal Attachmentが、出産後18ヵ月の母親のわが子に対する感情と育児態度に対して予測力をもつのかを検討した。その結果、妊娠期における Maternal Attachmentが、出産後1ヵ月におけるMaternal Attachment を経由して、出産後18ヵ月における母親のわが子への密着化傾向やポジティブな育児態度に対して影響力をもつことが示された。また、ネガティブな育児態度に対して出産後18ヵ月における夫の態度、子どもの問題、母親としての自己評価、抑うつ傾向が影響力をもつことが示された。したがって、妊娠期における Maternal Attachment が後の母子関係にとって重要となり、病院や市町村などで実施されている妊娠期における保健指導の果たす役割の重要性が示唆されたといえる。

Key words: Maternal Attachment, 育児態度, 縱断研究

## I. はじめに

母親のわが子に対する感情をMaternal Attachmentとしてとらえた研究において、出産後早期におけるMaternal Attachmentが、その後のわが子への感情や子どもの発達に影響を及ぼすことが指摘されている。例えばKlaus & Kennel<sup>1)</sup> は、出産後早期におけるMaternal Attachmentが、その後の母親のわが子に対するポジティブな感情や育児態度、さらには子どもの発達に長期にわたって影響を及ぼすと考えている。またNagataら<sup>2)</sup> はMaternal Attachmentとマタニティーブルーとの関係、マタニティーブルーと育児に対するネガティブな感情との関係を明らかにし、出産後の早期におけるMaternal Attachment の必要性を指摘した。妊

媛期から Maternal Attachment を取り上げた研究においては、多くの研究が胎児に対する Maternal Attachment と新生児に対する Maternal Attachment との間に有意な正の相関を認めている<sup>3)-6)</sup>。したがって、Klaus & Kennel<sup>1)</sup>の仮説とその後の研究結果<sup>3)-6)</sup>から、妊娠期における Maternal Attachment の形成が、出産後早期における Maternal Attachment を経由して、後の母親のわが子に対する感情や育児態度に影響を及ぼすことが理論的に予測される。

一方,母子関係障害をとりあげた研究の中で, Brockington<sup>で</sup>は Maternal Attachment の 欠 如 が 児童虐待やネグレクトと関連があることを指摘 し,さらに Maternal Attachment の 欠 如 が 抑う つを引き起こしたり,抑うつを複雑にして長期 間にわたって母子関係に影響を与える可能性が

The Effect of Maternal Attachment on Childcare Attitude of Mother at The Birth Post-18 Month

Saori Sato

受付 04. 8.17

名古屋大学大学院 教育発達科学研究科博士課程 (後期課程)/助産師 別刷請求先:佐藤里織 〒490-1301 愛知県稲沢市平和町須ヶ谷前浪341-1

Tel: 0567-46-0666

採用 05. 2.10

あることを指摘した8)。したがって、出産後早 期において Maternal Attachment が適切に形成 されていないことが、その後の母親のわが子に 対するネガティブな感情や育児態度に影響する ことが予測される。中島<sup>9)</sup>は、Maternal Attachment の適切な測定は、母親と子どもに対する 援助を査定するために必要であることを指摘し ている。つまり、これらの先行研究は、出産後 早期の段階で Maternal Attachment が適切に形 成されていない母親を発見し治療につなげるこ との重要性を指摘しているのである。しかしな がら、BrockingtonらはMaternal Attachmentの 欠如がその後のネガティブな母子関係に影響を 及ぼすことを明らかにしているが、Maternal Attachment とポジティブな母子関係との関連 については議論していない。つまり、妊娠期お よび出産後早期における Maternal Attachment の形成が、その後のポジティブな母子関係にど れほど重要な意味をもつのか、さらに、ポジティ ブな母子関係にとって重要な要因とは何かにつ いて実証的なデータを用いてほとんど研究され ていないといえる。

本研究では、50人という小さなサンプルサイズではあるが、妊娠初期、中期、後期(以後妊娠3期と記す)、出産後1か月、出産後18か月における5時点で実施した縦断的な追跡調査の結果から、妊娠期および出産後1か月におけるMaternal Attachmentが、出産後18か月の母親のわが子に対する感情と育児態度に対して予測力をもつのかを明らかにすることを目的とする。また、出産後18か月における母親のわが子に対する感情および育児態度に対して、同時期の母親としての自己評価、夫の態度、夫の父親としての評価、母親の抑うつ傾向、子どもの問題を説明変数に含めた場合、妊娠期および出産後1か月におけるMaternal Attachmentがどの程度の予測力をもつのかを検討する。

出産後18か月は子どもにとって歩行開始期ともいえ、子どもは探索行動が活発になることや、行為主体としての自己が意識化され始めることに伴いさまざまな葛藤を経験する時期である。また、子どもの探索行動の広がりは親から行動に対する制限や禁止を引き出し、親子の対立を増加させる。そのため出産後18か月は、育児上

トラブルとなる要因が容易に得られるようになる時期と考えられる。したがって、妊娠3期および出産後1か月におけるMaternal Attachmentと、出産後18か月における母親のわが子に対する感情および育児態度との関係を明らかにすることができれば、育児上トラブルをもつ母親に対して早期に介入でき、後の母親の育児態度をよりよい方向へと導くことが期待できる。

## Ⅱ.方 法

#### 1. 調査対象および調査時期

調査対象者は、愛知県内の病院にて2002年5 月~8月に出産された初産婦であった。調査は 2001年10月~2004年2月までの3年間に実施し た。妊娠期における調査は初期104名中102名. 中期102名中97名、後期102名中91名より回答が 得られた。出産後1か月においては妊娠3期に おいて回答が得られた90名に調査を行い85名よ り回答が得られた。さらに妊娠3期、出産後1 か月、出産後18か月の計5時点を通じてすべて 質問紙が回収されたのは85名中52名であり、そ のうち有効回答数は50名であった。分析にはこ の50名の妊娠3期,出産後1か月,出産後18か 月のデータを使用した。母親の平均年齢は、出 産後18か月の時点で29.58歳 (SD=4.27) であ った。分娩様式は、経膣分娩が39名であり、帝 王切開が11名であった。家族構成は、核家族が 40名であり、複合家族が10名であった。職業の 有無は、専業主婦が34名であり、パートあるい は常勤の仕事をもっていた人は16名であった。

## 2. 調査手続

妊娠3期と出産後1か月は、当該病院の妊婦健診および出産後の1か月健診における待ち時間に質問紙を配布しその場で回収した。里帰り出産や転院等の理由により病院での回答が困難な場合は郵送調査を行った。出産後18か月は全員郵送によって配布・回収した。

#### 3. 倫理的配慮

研究対象者に筆者および産科外来スタッフ が,研究目的,プライバシーの保護,研究協力 は任意であること等を明記した質問紙を配布し 直接説明した。さらに口頭ないし文章で承諾を 得た対象者に回答を依頼した。質問紙は無記名 としたが、妊娠初期から出産後18か月までの データを照合するためにID番号が記入されて いる質問紙を用いた。その際、質問紙にはデー タが統計的に処理され、個人を特定化したり、 公表することがないことを明記した。出産後18 か月の時点では、質問紙を郵送する以前に、電 話訪問にて再度質問紙調査の依頼をし、口頭で 承諾を得た後、質問紙を郵送した。

## 4. 調査内容

#### i 妊娠3期

胎児に対するMaternal Attachment: Prenatal Attachment Inventory (PAI) <sup>10)</sup>の日本語版<sup>5)</sup> 21項目を使用した。母親が胎児に対して抱く Attachmentを測定する質問紙で、母親の胎児への思いや、行動を表している。各項目について「だいたいいつも」(4点)から「めったにない」(1点)の4件法で回答を求めた。

#### ii 出産後1ヵ月

新生児に対するMaternal Attachment: Maternal Attachment Inventory (MAI)<sup>11)</sup>の日本語版<sup>5)</sup> 26 項目を使用した。母親が新生児に抱く Attachment を測定する質問紙で、母親の新生児への思いや行動を表している。各項目について「だいたいいつも」(4点)から「めったにない」(1点)の4件法で回答を求めた。

#### iii 出産後18か月

- a. 育児についての感想(\*\*): 育児について日頃どのようにとらえているかを測定する尺度であり、 育児を楽しいものだととらえる4項目と育児を 苦しいものだととらえる7項目の計11項目から 構成されている。「とても賛成」(5点)から「まったく反対」(1点)までの5件法で回答を求めた。
- b. 育児困難感<sup>(3)</sup>: 育児に対する心配・困惑・不 適格感をとらえる8項目と、ネガティブな感情・攻撃衝動性をとらえる6項目の計14項目か ら構成されている。「はい」(1点)から「いい え」(4点)までの4件法で回答を求めた。
- c. 子どもに対する感情\*\*\*): 母親が子どもを自分自身のどこに位置づけ、子どもに対していかなる距離感をもって接しているかという視点から2

因子構造を仮定して作成されたものである。子どもへの密着化傾向を示す9項目(以後,密着化傾向)と,子どもの自立を促すと同時に子どもと自分との間にある程度の距離をおいて客観的な関わりを志向することを示す6項目(以後,客観的関わり志向)の計15項目から構成されている。「そのとおりである」(4点)から「違う」(1点)までの4件法で回答を求めた。

- **d. 母親としての自己評価**<sup>[5]</sup>: 母親としての自分の能力をどのように評価しているかを測定する項目で8項目から構成されている。「とてもよくできる」(4点)から「よくできない」(1点)までの4件法で回答を求めた。
- **e. 夫の態度**<sup>[5]</sup>: 母親に対して夫がどのような態度で接しているのかを測定する項目であり 6 項目から構成されている。「とてもよくしてくれる」(4点)から「まったくしてくれない」(1点)までの4件法で回答を求めた。
- f. 夫の父親としての評価<sup>[5]</sup>: 母親が父親としての 夫の能力をどのように評価しているのかを測定 する項目であり8項目から構成されている。「と てもよくできる」(4点)から「よくできない」 (1点)までの4件法で回答を求めた。
- g. 母親の抑うつ傾向<sup>[5]</sup>:この1か月間における 母親の心身の状態についてたずねたものであり 5項目で構成されている。「そのとおりである」 (4点)から「違う」(1点)までの4件法で回答を求めた。
- h. 子どもの問題<sup>[3]</sup>:子どもの特徴についてたずねたものであり、「心配になる行動や癖がある」「偏食・小食・乳離れしないなど食事の問題がある」「慢性的な病気がある」「発達の全般的な心配がある」「乱暴である」の5項目を選択して用いた。「そのとおりである」(4点)から「違う」(1点)までの4件法で回答を求めた。

本研究では、育児についての感想<sup>11)</sup>と育児困難感<sup>12)</sup>の2尺度を用いてポジィティブな側面とネガティブな側面の両面から母親の育児態度を測定した。

#### Ⅱ. 結果

## 1. 記述統計と各変数間の相関

妊娠3期におけるPAIおよびMAIと、出産後18か月における母親のわが子に対する感情お

よび育児熊度の記述統計と各変数間の相関係数 を示したものが表1、表2である。すべての得 点は、各質問項目の得点を単純加算して、平均 値を項目数で除した得点で表した。PAIは妊娠 3期相互において有意な正相関を示し (p< 0.01). MAIとの間にも有意な正相関を示した(p <0.01~0.05)。また、妊娠3期におけるPAI とMAIは育児の楽しさとの間に有意な正相関が あり (p<0.01~0.05), 特にMAIと育児の楽し さとの相関係数が最も高かった。さらに、MAI は出産後18か月における密着化傾向との間に有 意な正相関があり (p<0.01), 育児の苦しさ と心配・困惑・不適格感との間に有意な負の相 関があった (p<0.01)。出産後18か月におけ る母親のわが子に対する感情と育児態度との関 連においては、育児の楽しさと密着化傾向との 間に有意な正相関があり (p<0.05), 育児の 苦しさと客観的関わり志向との間に有意な正相 関が認められた (p<0.05)。 育児態度各々の 関連においては育児の楽しさと育児の苦しさ. 心配・困惑・不適格感、ネガティブ感情・攻撃 衝動性との間に有意な負の相関があった (p< 0.01)。一方、育児の苦しさ、心配・困惑・不

表1 記述統計

6	Mean	SD	最小值	最大値
初期PAI	1.68	0.36	1.05	2.81
中期PAI	2.44	0.50	1.33	3.48
後期PAI	2.78	0.54	1.43	3.90
MAI	3.57	0.29	2.50	3.96
わが子に対する 感情				
密着化傾向	2.88	0.41	1.90	3.70
客観的関わり 志向	3.09	0.39	2.30	4.00
育児態度				
育児の楽しさ	3.07	0.44	1.44	3.75
育児の苦しさ	2.50	0.59	1.16	3.88
心配・困惑・ 不適格感	2.20	0.57	1.13	3.50
ネガティブ感 情・攻撃衝動 性	2.03	0.69	1.00	3.67

n = 50

適格感,ネガティブ感情・攻撃衝動性各々の間には有意な正相関があり(p<0.01),特に心配・困惑・不適格感と子どもへのネガティブ感情・攻撃衝動性との相関係数は高値であった (p<0.01)。

## 2. 出産後18ヶ月における母親のわが子へ感情と育 児態度に対する妊娠3期のPAIおよびMAIの影響

妊娠3期におけるPAIおよびMAIが、出産後 18か月における母親のわが子に対する感情と育 児態度に対してどの程度の予測力をもつのかを 検討するために、出産後18か月における母親の わが子に対する感情と育児態度各々を目的変 数、妊娠3期におけるPAIとMAIを説明変数と した重回帰分析を行った (表3)。結果、 MAI が密着化傾向, 育児の楽しさ, 育児の苦しさ, 育児に対する心配・困惑・不適格感に対して影 響力をもつことが示された。特に育児の楽しさ に対するMAIの決定係数は0.447であり、比較 的大きな予測力をもっていた。妊娠期における PAIの影響については、 育児の楽しさに対する 妊娠中期におけるPAIの影響力を除いてわが子 に対する感情や育児態度に対して妊娠期におけ るPAIの影響は認められなかった。したがって、 後の分析は出産後1か月に焦点をあてて検討を 進めていく。

# 3. 出産後18ヶ月における母親のわが子に対する感情と育児態度に対する影響要因

出産後18か月におけるその他の変数(母親としての自己評価、夫の態度、夫の父親としての評価、母親の抑うつ傾向、子どもの問題)を考慮した場合に、出産後1か月におけるMaternal Attachmentが後の母親のわが子に対する感情と育児態度をどの程度予測するのか調べるために、MAIと出産後18か月におけるその他の変数を説明変数、出産後18か月における母親のわが子に対する感情と育児態度各々を目的変数とした重回帰分析を行った(表4)。MAI は密着化傾向と育児の楽しさに対して影響力をもつことが示された。また育児の楽しさにはMAI 以外に夫の態度が影響力をもっていた。しかし、育児の苦しさ、心配・困惑・不適格感、ネガティブ感情・攻撃衝動性に対してMAI は影響力

表 2 各変数間の単純相関

	初期PAI	中期PAI	後期PAI	MAI	育児の楽しさ	育児の苦しさ	心配・困 惑・不適 格感	ネガティ ブ感情・ 攻撃衝動 性	密着化倾向
中期PAI	0.622**								
後期PAI	0.617**	0.726**							
MAI	0.290*	0.439**	0.525**						
育児態度									
育児の楽しさ	0.284*	0.501**	0.412**	0.651**					
育児の苦しさ	-0.256	-0.133	-0.261	-0.401**	-0.390**				
心配・困惑・ 不適格感	-0.258	-0.228	-0.297*	-0.407**	-0.529**	0.641**			
ネガティブ感 情・攻撃衝動 性	-0.183	-0.231	-0.123	-0.242	-0.509**	0.544**	0.708**		
わが子に対する 感情									
密着化傾向	0.190	0.369**	0.277	0.574**	0.355*	-0.186	-0.176	-0.085	
客観的関わり 志向	-0.048	0.022	0.033	-0.071	0.033	0.370*	0.229	0.072	0.037

<sup>\*\*</sup>p<0.01 \*p<0.05

表3 妊娠3期のPAIと出産後1か月のMAIを説明変数とした重回帰分析

目的変数	$R^2$	説明変数(	(標準偏回帰係数)
わが子に対する感情			
密着化傾向	0.313**	MAI ( 0.565**)	
客観的関わり志向	_		
育児態度			
育児の楽しさ	0.447**	MAI ( 0.567**) 中期 PAI	(0.382**)
育児の苦しさ	0.148*	MAI $(-0.401**)$	
心配・困惑・不適格感	0.119*	MAI $(-0.363**)$	
ネガティブ感情・攻撃衝動性			

\*\*p<0.01 \*p<0.05

をもたず、育児の苦しさに対して子どもの問題、 心配・困惑・不適格感に対して母親としての自 己評価と母親の抑うつ傾向および夫の態度、ネ ガティブ感情・攻撃衝動性に対して夫の態度が 影響力をもっていた。

## Ⅳ. 考 察

妊娠初期から出産後18か月までの縦断研究により、妊娠3期におけるPAIとMAIとの間に有意な正相関が認められたことは、妊娠期における Maternal Attachment と出産後早期における Maternal Attachment の関連を示すものであり

先行研究<sup>3)-6)</sup>を支持するものである。また,妊娠3期におけるPAIとMAIを説明変数とした重回帰分析の結果から妊娠3期におけるMaternal Attachmentは,出産後18か月における母親のわが子に対する感情と育児態度に対して直接効果をもたないが,出産後1か月のMaternal Attachmentとの相関係数が高いことから出産後1か月のMaternal Attachmentを介した間接効果をもつことが示唆された。

出産後1か月のMaternal Attachment に焦点を当てた分析結果から、出産後1か月のMaternal Attachment は出産後18か月における

表 4	MAI	とその	他の変数を	説明変数と	した重回帰分析
-----	-----	-----	-------	-------	---------

目的変数	$\mathbb{R}^2$	説明変数(標準偏回帰係数)
わが子に対する感情		
密着化傾向	0.294**	MAI (0.720**)
客観的関わり志向	_	
育児態度		
育児の楽しさ	0.462**	MAI (0.402**) 夫の態度 (0.315**)
育児の苦しさ	0.307**	子どもの問題 (0.320*)
心配・困惑・不適格感	0.600**	母親としての自己評価 (-0.479**) 抑うつ傾向 (0.345**) 夫の態度 (-0.299*)
ネガティブ感情・攻撃衝動性	0.257**	夫の態度 (-0.355*)

 $**_{p} < 0.01 *_{p} < 0.05$ 

母親のわが子に対する感情の中でも密着化傾向に対して影響力をもつことが示された。一般に母子関係において母親がわが子をいとおしく思いわが子に対して直接的かつ積極的な関わりを持つことや、子どもの成長に対する喜びや子どもへの期待から献身的な感情をもつことは重要なことと考える。したがって、出産後1か月におけるMaternal Attachmentが、出産後18か月における母親の密着化傾向に対して影響力をもっていたことは、出産後1か月におけるMaternal Attachmentの重要性を示唆するものである。

母親の育児態度に対する出産後1か月の Maternal Attachment の影響力は、その他の変 数を説明変数として投入した場合に, 育児の楽 しさに対してのみ影響力をもち, 育児の苦しさ, 心配・困惑・不適格感、ネガティブ感情・攻撃 衝動性に対する影響力は示されなかった。した がって, 育児を楽しいと感じるポジティブな育 児態度は出産後 1 か 月 における Maternal Attachment によって影響を受けるが、 育児の 苦しさ,心配・困惑・不適格感,ネガティブ感 情・攻撃衝動性などのネガティブな育児態度に は出産後1か月の Maternal Attachment は弁別 力をもたず、出産後18か月における他の要因の 直接効果が強いといえる。育児はすばらしい経 験であり、多くの喜びと発見を分かち合う営み である。しかし育児を苦しいかと聞かれれば, たいてい多くの母親は苦しいと答えるのではな いだろうか。これは、母親にとって育児の楽し さには個々人の母親の主観的評価が加わるが,

育児の苦しさに対して主観的評価は加わらず苦しさが事実として受け止められるためと考えることができる。また、ネガティブな育児態度に対して出産後18か月における夫の態度、子どもの問題、母親としての自己評価、抑うつ傾向が影響力をもっていたことは、ネガティブな育児態度に対して妊娠期や出産後1か月における影響力よりも、わが子と向き合っている現在の夫や家族などの育児サポートが重要となることを示唆するものと考える。

従来,妊娠・出産過程におけるMaternal Attachment の発達が指摘され,多くの研究によって胎児に対するMaternal Attachment と新生児に対するMaternal Attachment との関連が確認されている③~⑥。また,出産後早期のMaternal Attachment は,その後の母親の子どもに対する感情や育児態度,さらに子どもの発達に対して長期的な影響力をもたらすと考えられてきた』。本研究によって,妊娠期におけるMaternal Attachment が,出産後1か月におけるMaternal Attachment を経由して,その後の母親のわが子に対する感情や育児態度に対して影響を及ぼすという理論的な予測を実証的なデータを用いて明らかにされた。

## V. 結 論

妊娠3期,出産後1か月,出産後18か月における5時点で実施した縦断的な追跡調査によって,妊娠期におけるMaternal Attachmentが,出産後1か月におけるMaternal Attachmentを経由して,出産後18か月における母親のわが子

への密着化傾向や育児の楽しさに対して影響力 をもつことが示された。以上の結果から、妊娠 期における Maternal Attachment が後のポジテ ィブな母子関係にとって重要となることが示唆 されたといえる。したがって、病院や市町村な どで実施されている妊娠期における保健指導の 果たす役割が、出産後18か月における母親のわ が子に対する感情や育児態度にとって重要な意 味をもつといえる。育児期における母親を支援 するために、昨今さまざまなかたちで育児支援 活動が行われている。母親が子育てを楽しいと 感じられるような環境を提供するために、早期 の母子関係に注目し、後の母親のわが子に対す る感情や育児態度をプラスの方向へ導くことが 期待される。本研究により, 近年社会問題とな っている児童虐待や育児放棄など母子関係障害 の発達プロセスを理解するには限界があるかも しれない。しかしながら、少なくともその可能 性を残したと考える。

## M. 今後の課題

本研究では、出産後18か月における母親のわ が子に対する感情や育児態度に対する妊娠期お よび出産後早期における Maternal Attachment の影響力を傾向としてとらえたにすぎず、集団 全体の中で個人がどのように変化したのかは把 握できていない。したがって、個々人の特徴を 考慮したうえで、妊娠期および出産後早期にお ける Maternal Attachment が、その後の母親の わが子に対する感情や育児態度に対して影響力 をもつのかについて検討する必要がある。特に 出産後1か月におけるMAI得点の分布によって 母親の特徴をとらえ, その人たちに何らかの共 通なパターンがみられるかどうか探ることが必 要であると考える。第二に本研究の対象者数は, 調査開始時点では104名であったが、最終調査 期である出産後18か月で50名となり回収率が低 下した。縦断研究の最大の難点は,長期間を要 し多くの時間・経費・労力が要求される点であ り、この問題を排除するには限界があった。し たがって、このような調査を多様な場面で繰り 返すことで妥当性の高い因果関係を推定する必 要がある。

#### 謝辞

本論文の作成にあたり、貴重なご助言をいただき ました名古屋大学氏家達夫教授に心より感謝申し上 げます。また、長期間にわたる調査にご協力下さい ましたお母様方に心より感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) Klaus, M.S., & Kennell, J.H./竹内 徹・柏木哲夫 訳. 母と子のきずな. 東京: 医学書院, 1979.
- Nagata, M., Nagai, S., Sobajima, H. et al.. Maternity blues and attachment to children in mothers of full-term normal infants. Acta Psychiatrica Scandinavia 2000; 101: 209-217.
- Cranley, M.S. Development of a Tool for the Measurement of Maternal Attachment During Pregnancy. Nursing Research 1981; 30 (5): 281-284.
- 4) Müller, M.E. Prenatal and Postnatal Attachment: A Modest Correlation. Journal of Obsteric, Genecologic, and Neonatal Nursing 1996; 25: 161-166.
- 5) 辻野順子, 雄山真弓, 乾原 正, 他. 母親の胎 児および新生児への愛着の関連性と愛着に及ぼ す要因 — 知識発見法による分析 —. 母性衛生 2000;41(2):326-335.
- 6) 佐藤里織. 初妊婦における胎児に対する Attachment (きずな) が新生児に対する Attachment に及ぼす影響 妊娠初期から出産後 1 ゕ月までの縦断的研究 . 日本看護科学会誌 2004; 24(3): 72-80.
- 7) Brockington, I.F./岡野禎治監訳 Motherhood and Mental Health 母性とメンタルヘルス. 東京:日本評論社, 1996.
- Brockington, I.F., Oates, J., George, S. et al. A Screening Questionnaire for mother-infant bonding disorders. Archives of Women's Mental Health 2001; 3:133-140.
- 9)中島登美子. 母親の愛着質問紙 (MAQ) の信頼性・妥当性の検討. 小児保健研究 2002;61(5):656-660.
- 10) Müller, M. E. Development of the Prenatal Attachment Inventory. Western Journal of Nursing Research 1993; 15: 199-215.
- 11) Müller, M.E.A Questionnaire to Measure Mother-

- to-Infant Attachment. Journal of Nursing Measurement 1994; 2:129-141.
- 12) 氏家達夫.子ども時代の母親についての記憶が 母親としての態度に及ぼす影響について.母性衛 生1995;36(1):173-180.
- 13) 川井 尚, 庄司順一, 千賀悠子, 他. 子ども総研式・育児支援質問紙(試案)の臨床的有用性に関する研究. 日本子ども家庭総合研究所紀要
- 2000; 36: 117-138.
- 14) 大日向雅美. 母性の研究. 第1版. 東京:川島 書店, 1988:135-169.
- 15) 氏家達夫. 母親の心理社会ストレスが子どもの 愛着・行動の自己制御機能の発達に及ぼす影響. 平成2・3年度科学研究費補助金研究成果報告 書. 福島大学教育学部, 1992.